

- 将来を担う人が育つまちをつくる
- 安心して生活できるまちをつくる
- 賑わいのあるまちをつくる
- 暮らしやすいまちをつくる



発行 ● 町田市 編集 ● 政策経営部広報課  
〒194-8520 東京都町田市森野2-2-22  
市役所の代表電話 ● 042-722-3111  
市役所の窓口受付時間 ● 午前8時30分～午後5時  
ホームページ ● <http://www.city.machida.tokyo.jp/>

町田市  
ホームページ  
QRコード



今号の紙面から ● 3面 10月から市内2か所目の病児保育室を開設します ● 4面 各種障害手当を受給している方へ 現況届の提出を

## この発想が、町田を拓げる、未来を拓げる

市は、「町田市産業振興計画19-28」を策定し、市内事業者の「事業を“拓げる”チャレンジ」の促進・支援を、施策の柱の1つに掲げています。

新しい技術や考えを取り入れて商品やサービスの付加価値を高めつつ、異業種や異分野とも積極的に連携するなど、市内事業者が取り組む“拓げる”チャレンジの一部を紹介します。

問 産業政策課 ☎724・3296

### “拓げる”チャレンジ その1

#### 新しいアイデアや技術の開発を支援

市は、5月に日本弁理士会と産業振興に関する連携協定を締結しました。その一環として、将来を担う子どもたちに、発明の楽しさ、大切さを知ってもらう取り組みをしています。

#### まちだキッズ発明体験教室

8月3日午後、暑さにも負けない元気な子どもたちが、続々と会場に。

前半は、電子紙芝居「パン職人レオ奮闘記」を観賞しました。レオくんは、発明したジャムパンが既に特許を取られてしまっていることを知り、次に発明したカレーパンでは、今度はしっかり弁理士さん\*と相談しようと思つた…というお話。紙芝居と弁理士さんのお話を通して、「発明」について学びました。

後半は、発明工作「オリジナルペン立て作り」に挑戦。

ペンを一本ずつ分けて大切にしまえる「発明」、大きなカエルの形をしていて、真ん中でパッカー開く「発明」。一つひとつに思いのこもった「発明」が花開いたひとときでした。

\*弁理士とは…特許や商標など知的財産権に関する専門家です。



#### あなたは今日、どんな発明をしましたか？



杉本 剛和さん  
(小学4年生)

ペン立ての一つは、六角形の飛行場をイメージし、消しゴムを置ける“滑走路”を作りました。もう一つは、ロボットの形をしていて、頭の部分がふたになっています。将来はものづくりやデザイナーの道に進みたいです。



家では、弟と一緒にダンボールの切れ端で自動販売機やお人形さんを作ったりしています。ペン立てでは、取り外しができる取っ手を付けたり、一本ずつ分けて入れられるように仕切りを付けました。



栞山 桃佳さん  
(小学3年生)

### 大人の“発明家”の子ども時代は…？

#### 市内の事業者さんに聞きました！ 子どもの頃の夢や今の仕事をしようと思ったきっかけは何ですか？

保育園のときの私は、トラックの運転手さんになりたくて、当時は国道を走る“デコトラ”を羨望のまなざしで眺めていたそうです。

中学・高校生の頃は、経営者の父親が、事業で使っていたパソコンを与えてくれたので、釣りゲームをプログラミングして遊んでいました。これが現在の自分(AIスタートアップ経営者)の原体験になっていると考えています。



株式会社アジラ 代表取締役 木村 大介氏

中学生の頃までは、弁護士になりたかったです。当時、弁護士のいない地域で社会的弱者が多く生まれているというニュースを見て、相談相手がなくて困っている人たちの力になりたいと思いました。その後、仕事にまい進しつつ家族を大切にすることを尊敬し感謝していたことから、父の創業した会社で力になりたいと思うようになりました。



シー・エイチ・シー・システム株式会社 代表取締役 渋谷 俊彦氏

お二人の会社の製品が、2019年度町田市トライアル発注認定商品に決定しました。

“拓げるチャレンジ”その2、その3は2面で！